

みんなの白岡遺産

2号



文化財一般公開（太田新井 安楽寺）

令和6年6月8日（土）太田新井の安楽寺において文化財の一般公開を行いました。当日は好天に恵まれて市内外から113名の方々が来場され、普段は公開していない仏像を間近で見学してもらうことができました。

市文化財保護審議会会長の板垣時夫氏から安楽寺と仏像についての解説をいただき、説明の後は、仏像の自由拝観を行いました、来場者の皆さんは説明に聞き入るとともに、熱心に仏像を見学していました。

安楽寺のご住職、ご家族の方、関係者、ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

また、ご多忙にもかかわらず文化財一般公開に参加された皆様ありがとうございました。

「地域の文化財を地域の手で守る」を合言葉に、これからも市内に眠っている文化財を公開できますよう、関係者の皆様と話し合い、ご協力をお願いする所存です。

安楽寺文化財一般公開

6月8日（土）、太田新井の安楽寺において、安楽寺所蔵の木造薬師如来坐像、円空作菩薩形坐像、十三仏龕の3点の文化財を一般公開しました。

木造薬師如来坐像と円空作菩薩形坐像は白岡市指定文化財、十三仏龕は篠津の仏師である立川金禄が製作したものです。



仏像の自由拝観の様子

木造薬師如来坐像

安楽寺の薬師如来は、庫裡の南側にある薬師堂に安置され、厨子の中に納められています。

体部は損傷が激しかったといい、昭和57年に篠津の仏師で彫刻家であった立川金禄によって修復されました。



円空作菩薩形坐像

円空は、江戸時代の前期に美濃国（現在の岐阜県）に生まれた僧で、各地を巡り歩き、行く先々で木切れを素材とした独特の作風の仏像や神像を残したことで知られています。



埼玉県は、岐阜県、愛知県に次いで多くの作品が確認されています。中でも白岡市をはじめ、蓮田市、春日部市、宮代町など東部地域に多く残されており、日光とつながる街道筋とのかかわりが注目されています。

安楽寺に伝えられている菩薩形坐像は、当地域に特徴的にみられる20cmに満たない小像群の一つで、安楽寺須弥壇から発見されたものです。口元に優しい笑みを浮かべ、円空仏の特徴の一つである「微笑み」がよく現れています。

十三仏龕

龕とは仏像や経文を安置するために壁面や塔内に設けられた小室のことですが、観音開きとなる厨子の内部に仏像を彫るものもそう呼ばれています。



安楽寺の十三仏龕は、住職の福澤氏の発願で昭和24年に奉納されたもので、篠津の立川金禄の手になるものです。

お砂踏み

文化財の一般公開は、安楽寺の「お砂踏み」に合わせて開催しました。「お砂踏み」は、四国八十八ヶ所の霊場などから集めたお砂を各霊場のご本尊の写し仏をお祭りし、お砂を踏みながら礼拝することで、四国を巡ったことと同じご利益を頂けると考えられてきました。

安楽寺の「お砂踏み」は住職が四国八十八ヶ所霊場を巡り頂戴してきたものです。

本堂において八十八ヶ所の霊場などから集めたお砂を踏みながら、それぞれのご本尊の写し仏を順路に従い礼拝いたしました。礼拝の最後に住職からお守りと、願い札を頂きました。願い札は後日住職が祈祷してくれるとのことでした。

今年も実施予定ですので、霊場巡りを体験してみたい方が多いでしょう。

白岡遺産ワークショップに参加して

白岡市立大山小学校は、明治 22 年 6 月 1 日に設立され令和 7 年で 136 年間が経過しました。しかし、少子高齢化社会の波には勝てず全校生徒 46 人となり令和 7 年 3 月 31 日で閉校となることになりました。地元ではこれを白岡遺産に登録出来ないものかという機運が高まりました。

そこで、「白岡遺産ワークショップ」で検討することになりました。大山小学校の歴史をまとめ、それに「白岡市民として誇れる守り伝えてゆきたい」大山小学校独自の「教育関連文化財群」を加える必要があるではないかということになりました。その教育関連文化財群を見つけるため現在ワークショップを行っています。スタッフとして参加している私の役目は、今迄分かってきたその「教育関連文化財群」を報告することです。

①校歌は、京都御所の前庭の左右に植えられている「左近の桜」・「右近の橘」の精神に則り作詞されたとのことです。作詞は千家尊福^{せんげたかふみ}です。作曲は田村虎蔵です。

②校章は、校歌に歌われている「桜」と「橘」を重ねてそのデザインにしたそうです。

③大山小学校が昭和 62 年 11 月 15 日、百周年を迎えたとき校庭に記念碑を設置しました。表に校歌の歌詞を裏に「百年のあゆみ」を刻みました。

④全校文集（大山の子）が、1 号から現在まで全て保存されているそうです。

⑤校内にある梨園には、今では市内で全くお目にかかれなくなった「長十郎」の木が保存されているそうです。

⑥日本が太平洋戦争に負け昭和 20 年 8 月 15 日が終戦の日です。その時 6 年生で在校していた高齢の卒業生の話は、非常に貴重なものでした。内容は、日本が軍国主義から自由主義に 180° 考え方が変わり、教科書で不都合な部分は、新しい教科書が間に合わなかったのが、墨で黒く塗られたとのことです。

まだ、ワークショップは続いていますので出来る限り独自の「教育関連文化財群」を見つけ「地

域の人と文化を育み守ってきた大山小学校」が、第 7 番目の白岡遺産に認定されるよう我々スタッフも協力を惜しみません。

（白岡遺産保存活用市民会議 山本 一夫）

令和 6 年度事業のまとめ

◇5 月 19 日（日）定期総会及び公開講演会

於：生涯学習センター

出席者 47 名（内書面出席 16 名）

- ・令和 5 年度事業報告及び収支決算の認定
- ・令和 6 年度事業計画及び収支予算の承認
- ・講演会「白岡遺産」を活用した街づくりと「市民会議」の役割

講師：奥野麦生氏（市教育委員会生涯学習課）

◇6 月 8 日（土）安楽寺文化財一般公開

参加者 113 名 於：安楽寺（太田新井）

- ・解説 板垣時夫氏（市文化財保護審議会会長）

◇7 月 21 日・8 月 18 日・9 月 15 日・10 月 20 日（すべて日曜日）白岡遺産の作り方講座

参加者のべ 13 名 於：生涯学習センター

◇11 月 3 日・12 月 15 日・2 月 16 日（すべて日曜日）白岡遺産ワークショップ

参加者のべ 25 名

於：柴山集会所、生涯学習センター

◇1 月 26 日（日）文化財防火デー参加・協力

参加者 31 名 於：観福寺（野牛）

- ・訓練内容 通報、初期消火、文化財搬出、放水
- ・指導 埼玉県東部消防組合、白岡市消防団第 4 分団



文化財防火デー放水訓練

◇3 月 31 日（月）白岡遺産保存活用市民会議広報紙『みんなの白岡遺産』2 号発行 300 部

- ・A4 判 4 ページカラー印刷

地域文化財愛護活動の紹介

篠津下宿文化財保存会と「篠津天王様」

白岡市篠津地区では、天王様が毎年7月15日に近い日曜日に、須賀神社の祭礼として盛大に執り行われます。祭礼には、江戸時代に作成された5台の山車が、上宿・横宿・宿・下宿・神山の5耕地から出され、それぞれの山車には、立川社中によって彫られた見事な彫刻があります。とりわけ下宿の山車には、上部を回転させ方向転換を図る仕組みが取り入れられています。

活動は、主に耕地の先人から受け継いだ「下宿の山車」を守ること、囃子連を中心に地域で結束し、祭礼当日に山車を無事に運行し、祭礼を成功させることです。下宿では、文化財保存とともに、「子供を大切にすること」を伝統としています。他の地区と比べても、山車に初めて乗る年齢が低く、乗る時間も長いといえます。これは子供の時に、「お祭りって楽しい、山車の上で太鼓が叩けてうれしい」と良い思い出があれば、大人になった後に地域を離れても祭礼当日は帰ってきてくれる、という地域の人達の思いからです。

文化財を守る次世代の担い手は子供たちです。今後も先人から受け継いだ文化財と、未来を担う子供たちの「二つの宝」を大切に守っていきます。



真言宗智山派 朝日山遍照院 安楽寺

住職 福澤隆雅

本尊 不動明王

文化財 木造薬師如来坐像（市指定）

円空作菩薩形坐像（市指定） ほか

白岡市太田新井 1162-1 ☎0480(92)1349

未指定文化財紹介

市内に存在する未指定文化財のうち、今回は白岡八幡神社拝殿前両脇に設置されている「石燈籠」を取り上げたいと思います。この石燈籠の銘文には、江戸時代の白岡村・下大崎村領主であった川副氏の五代目である川副重頼が寛文十二年（1635）に神社に寄進したことが記されています。川副氏は宇多源氏佐々木庶流で、二代目正俊が豊臣秀吉・秀頼に仕え、その子重次が豊臣氏滅亡後に徳川秀忠に仕官して徳川氏の旗本となりました。

白岡八幡神社の御神体を納めた厨子に残された墨書銘からは、貞享四年（1687）に川副重頼が、氏子と諮って御神体の修復を行い併せて御開帳を催したことがわかり、川副氏と白岡八幡神社との繋がりを示す資料として注目されます。

また、白岡村の名主宅等には、川副氏から拝領した^{かみしも}袴や^{さかづき}盃、川副氏のことを記した古文書が残されており、こうした資料も川副氏関連資料群として捉えることができるのではないのでしょうか。石燈籠は白岡八幡神社の境内で見ることができます。



石燈籠（白岡八幡神社）

編集後記

昨年の1号に続き、今年度2号を発行することができました。今年度は安楽寺の文化財一般公開や白岡遺産ワークショップをとおして、市内の文化財への理解を深めることができました。

このような学習や活動に参加してみませんか。仲間を募集しています。

広報部会 大橋 忠夫、興野 明夫、大野 雄大、近藤 勝夫、進藤 美千代

白岡八幡神社

宮司 藤沼恵美子

祭神 応神天皇 仲哀天皇 神功皇后

文化財 鬼窪八幡宮鰐口（市指定）

白岡八幡宮梵鐘（市指定） ほか

白岡市白岡 889-1 ☎0480(48)5118